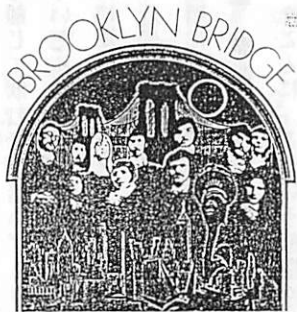


90年代前半は、60年代ポップアーティストの大物たちがアコースティック音楽を携えての復活の時代となった。CD表にジミー・ウェッブと描かれた知人ぞ知るソングライターの復活も、若干のサポート楽器を得てはいるがピアノ弾き語りの自作自演集によった。60年代末、5thディメンション、ブルックリン・ブリッジ、グレン・キャンベル、リチャード・ハリス、アート・ガーファンクルとトップテンヒットを一気に提供し続けたジムも、作曲家としての大成が早すぎたか或いはその癖のある歌声からかシンガーソングライターとしては人気を認められるに至らなかった。しかし30年という紆余曲折の歳月を経て、そのくつろいだ風情（外人の素足のままの写真も珍しい）は人生を悟ったかのような渋い歌声を暗示していたのであった。確か輸入盤のみの発売CD、中味は珠玉の名作オンパレードだが、中でも「ワースト・ザット・クッド・ハブン」は予想以上の熱演で、一時私の車内だけではあるが大ブレイクとなった。

60年代後半ヒットパレードを席卷した絶頂の頃の全米No.3曲は、もともと5thディメンションのためにつくった都会の哀愁あふれる佳曲だが、あまりに多すぎるヒットに彼等の手が廻らなかつたか、68年ヒットしたのは11人編成のポップコーラスグループ「ブルックリン・ブリッジ」で、邦題は「恋のハブニング」であった。メロディ、ハーモニー、リズム、そして後のブラス・ロックを思わせるビートの四拍子揃った曲とニューヨークの都会をイメージしたアルバムジャケットに、当時東京の下宿生活に戸惑っていた私は思わず大枚 ¥1,900 をはたいていたのであった。



ジミー・ウェッブ/テン・イージー・ピース 1966 1st/ブルックリン・ブリッジ 1968

トークアバウト...とは、「...の話なら」、「...っていえば」から「最高の...!」とか「すごい...!」という意味に転じる はなし言葉です。文化の様々な面について考えている建築家を中心とする方々のエッセイ、いずれはきっと建築設計と結び付く「とっておきの話」となることでしょう

平成11年8月号

平成11年8月21日発行

JIA 近畿支部住宅部会

代表世話人 小南一郎

委員長 星野康彦 編集長 市居博

執筆者連絡先

- 市居博 (いちい・ひろし) 市居総合計画事務所・大阪市西区鞠本町1-18-8本町ウツボビル TEL 06-6449-7797
- 彼末れい子 (かれすえ・れいこ) 坂倉建築研究所/橋本健治・大阪市西区京町堀1-15-7 TEL 06-6443-0021
- 小南一郎 (こみなみ・いちろう) 小南一郎建築研究所・大阪市淀川区西中島4-4-25-1012 TEL 06-6303-0563
- 鈴木道子 (すずき・みちこ) M.I.A. ARCHITECT・大阪市西区京町堀2-14-20 OPMUウツボビルTEL 06-6445-9671
- 豊辺弘也 (とよべ・ひろや) 豊辺建築事務所・大阪市北区西天満5-3-10高橋ビル北2F TEL 06-6362-2045
- 林進 (はやし・すすむ) 岐阜大学工学部教授・TEL 058-230-1111
- 星野康彦 (ほしの・やすひこ) 寺崎興発建築士事務所・大阪市阿倍野区阪南町テラスキビルTEL 06-6622-8627